キャラクター名
天満屋敷 朔哉

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ ブラム＝ストーカー	ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	16	性別	男性
覚醒	犠牲	衝動	闘争	初期侵食率	32 %
出自	複数の兄弟姉妹が居る	経験	トラウマ	邂逅	いいひと

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	5	1	0			6
精神	2	0	0			2
社会	0	0	0	1		1

HP	24
行動値	14
(非装備時)	14
戦闘移動	19
全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
+4+2+10-3	ＲＣ	6r+1		16		①+②+③+④+⑤+⑥　侵蝕13
+6+3+10+15-2	ＲＣ	6r+1		34		①+②+③+④+⑤+⑥+⑦　100↑　侵蝕17

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ:UGN	
コネ:噂話	
応急手当キット	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
賢者の石	P	N		
妹	P　庇護	N　悔悟		
谷修成	P　信頼	N 劣等感		
■■■■■■■■■■■■■■■■	P ■■■■■■■■	N■■■■■■■■		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：	2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：エンジェルハイロウ	2	2	メジャー			シンドローム		
効果：クリティカル-[LV]。								
光の手	1	2	メジャー/リアクション			<RC>		
効果：判定を【感覚】で行える。								
主の恩恵	2	2	メジャー			シンドローム		
効果：攻撃力+[LV×2]。								
紅の刃	1	1	メジャー	視界		<RC>		
効果：射撃攻撃。 攻撃力:+[LV+1]。								
血の宴	3	3	メジャー		範囲(選択)	シンドローム		
効果：対象を範囲(選択)に変更。 シナリオLV回。								
殺戮領域	3	3	メジャー		-	シンドローム	リミット	
効果：血の宴と組み合わせて使用する。攻撃力+10.シナリオLV回。								
マスヴィジョン	2	4	メジャー			シンドローム	100	
効果：攻撃力+[LV×5]。 シナリオ3回。								
ピンポイントレーザー	2	2	メジャー			シンドローム		
効果：装甲無視。攻撃-[5-LV]。								
スターダストレイン	3	6	メジャー	視界	シーン(選択)	<RC>		
効果：攻撃をシーン(選択)に変更。その攻撃力を-[20-LV×5]								
猟犬の鼻	★							
効果：微粒子を見ることが出来る。さらに一度でも見た微粒子を覚えておくことが出来る。								
ブラッドリーディング	★							
効果：血や体液から、その主の情報を読み取る。								
七色の直感	★							
効果：感情読み取り。病気、負傷などの容体変化も読み取れる。								
効果：								

読み：あまやしき　さくや　/ラディー・ネビュラ

性格：楽観的、淡白的思考の昼行燈。
悲観的な考えは口にせず、事実と自らの意思を判断材料に行動する。
但し、あまり社交的かと言われると淡白に事実を述べる為、距離を置かれてしまっている。
また、自分から積極的に手を差し伸べるが、助力の必要なしと判断すれば淡白に突き放すことも普通に行う。
要するに、不真面目な連中には都合が悪く、真面目な人間には都合のいい奴なのである。

家族とトラウマと覚醒：幼少期、具体的には弟と妹が生まれたばかりの事。
父と病院に見舞いに行っている時に悲劇が起きた。
見舞いの花を買いに来た商店街でのガス爆発事故だ。
いや、もしかしたらレネゲイドに関係していた事件だったのかもしれないが……。
目の前が真っ白に染まった後、視界が真っ赤にぼやけて見えた。
そんな視界でも、ハッキリと見えてしまった。父が崩落する天井から自分を突き飛ばし押しつぶされる瞬間を。
朧げな意識の中、誰かが真っ暗になった左目に触れていた。熱い、焼けるような痛みに耐えきれず意識が消えた。
気が付くと、目の前にはいつも見ていた手だけが瓦礫から伸びていた。

それから、正直大変な毎日だった。弟も妹も母親も、もちろん自分も。家族一丸暮らしてきた。
もちろん、親族、地域の人々、助けてもらった人ばかりだ。

そして、もう一度、目の前で悲劇が起きる。
弟と妹と自分がジャームに襲われた、何が起きたかわからなかった。